

3月11日以降、連日のように被災地の情報が報道されています。現地では、復興に向けた様々な取り組みがはじまっていますが、その一方で、まだまだガレキの撤去などが進まずに手つかずとなっている地域もあるようです。

市では、震災発生直後から消防本部の職員を派遣し、人命救助などの救援にあたりました。地震直後の現地は大変な状況であり、消防隊の職員もその状況を目の当たりにし、驚がくしたようです。

そして、この震災から3か月後の6月、市では7名の市職員を交代で宮城県宮城郡七ヶ浜町へ被災地支援のために派遣しました。また、7月には1名の保健師を宮城県岩沼市へ派遣しました。

このページでは、実際に七ヶ浜町に入り、罹災証明に伴う家屋被災状況調査などを行いながら、震災のその後を見てきた職員からの情報をもとに、現地の様子をご報告します。

七ヶ浜町の被害状況

3月11日 14時46分頃 最大震度5強の地震発生。約1時間後、10mを超す大津波が襲来。沿岸部全域で壊滅的被害を受ける。

被害状況(7月4日現在)

■人的被害

町内で死亡した町民の方 58名
町内で死亡した町外の方 7名
町内で死亡した身元不明者 2名
町外で死亡した町民の方 32名
合計死亡者数 99名
行方不明の町民の方 6名

■避難所

6月20日をもって町内の避難所は全て閉鎖

七ヶ浜町は、日本三景・松島の南部を形成する、人口2万897人(平成23年1月1日現在)の、海に

囲まれた美しい町でした。

地形は沿岸部に位置する低地と、山を切り崩したあとに宅地造成された高台で構成されています。

今回の震災では、沿岸部のほとんどが津波で流される結果となり、死者・行方不明者は、こうした沿岸部に住んでいた方がほとんどとなりました。

しかしながら、高台にあり、津波から難を逃れた家屋も、そのほとんどが大きな揺れによって傾き、壁に亀裂が入るなどしており、罹災証明の発行にかなりの申請が来ている状況です。

この見開きページの写真は、手前が沿岸部の低地、右奥が高台の住宅地となっている状況を撮影したものです。現在も現地では大変な状況が続いているようです。



■現地の自治体職員と打ち合わせを行い、罹災証明発行のための家屋調査を行いました。

派遣日程と派遣職員、従事業務

6月13日～17日

税務課 程原誠二

水資源活用課 秦 和也

従事業務 現地調査・罹災証明発送準備・家屋被災状況調査

6月20日～24日

水資源活用課 小宮文彦

税務課 笠井貴志

従事業務 現地調査・被災者への取材・家屋被災状況調査

6月27日～7月1日

会計課 藤江 隆

水資源活用課 勝俣彰仁

水資源活用課 渡邊貴幸

従事業務 現地調査・家屋被災状況調査

7月19日～22日(宮城県岩沼市へ)

健康推進課 岩田真紀子

従事業務 保健師として活動

現地で聞いた被災者の声

「実家が気になり、車で向かっている途中、目の前を5mもの津波が横切った。無我夢中でバックして、事なきを得た。」

(松ヶ浜地区の60歳代・男性)



「まさか、こんな津波が来るとは思いもしなかった。せっかく、娘夫婦と同じ敷地に2軒の家を建て、家族楽しく暮らしていたのに…」

(菖蒲田浜地区の70歳代・男性)



新たな災害、「生活環境の悪化」

津波のあとのガレキなどから、大量の虫や異臭が発生しているそうです。これから気温が高くなるにつれ、こうした生活環境の悪化が新たな災害として被災者の方たちを悩ませています。

■職員が乗って行った公用車に群がるハエ。



被災地の、その後。